

今月の「未来へつなぐ」では、“最近実施したイベント”や“完成が待ち遠しいENTRANCE”について書いてもらっています。



町から感謝状。ボランティア活動、今後も継続。

9月6日(金)、昨年の北海道胆振東部地震から1年。これからの安平町の復興を祈願して追分公民館にて「復興祈念式典」が行われました。復興ボラセンもこの式典に招待していただき「震災以降、安平町の復旧のために尽力してくれた。」ということで、町から感謝状をいただきました。

しかし、これは今まで安平町で活動していただいた延べ4,000人以上もの災害ボランティアの方々の活動があってこそです。また、9月は8、17、22、23日に災害ボランティアの活動も社会福祉協議会と協力して実施しました。これからも支えてくれる皆様へ感謝の気持ちを忘れず、社会福祉協議会、ボランティアの方々と連携を取りながら町民の方のサポートを続けていきます。



震災から1年。マチに、人に、灯りがともった1日。

9月14日(土)に追分ふれあいセンターい・ぶ・きで「復興への絆～マチに灯りがともる1日～」を追分の商店街の店舗さんのご協力のもと、あびら復興加速実行委員会が主催となり開催しました。い・ぶ・きでは昨年は震災の影響により中止となってしまった「職場対抗カラオケ大会」を開催。商店街では「マチ灯りプロジェクト」と題し、安平町へのメッセージが書かれた約2,000個のLED紙袋ランタンを設置し、光による町の賑わい演出を行いました。イベントに参加して下さった町民の方からは「昨年できなかったカラオケ大会が復活して嬉しいです！ランタンの光とメッセージもすごくあたたかい。これからの頑張る力が湧いてきました！」との声もあり、本当に嬉しく思いました。来年も楽しく開催できることを祈っています！



札幌のシェフがもう一度！町民に特製ランチBOXを配布

9月14日(土)～16日(月)の三連休、道の駅あびらD51ステーションにて札幌のシェフの方々と復興ボラセンの共同主催で「食の復興祈願チャリティー」を開催しました。このイベントは、昨年の震災時に避難所で50日間も炊き出しを行って来ていた札幌の有名シェフの方々の「震災から1年が経ったこのタイミングで、もう一度安平町の方に自分たちの料理で元気を与えたい」という想いから開催が決まりました。3日目の最終日には町民を対象に限定350食の特製ランチBOXを無料配布。イベント開始前からたくさんの方にお越しいただき、およそ50分で全てのランチBOXの配布が終了。町民の方のたくさんの笑顔を見ることができ、シェフの方々も非常に喜んでくれていました。シェフたちの温かい料理と想いがしっかりと届いていると嬉しいです。



ENTRANCE、改修作業がついにスタート！

「安平町に未来への入り口となる町の拠点を！」のテーマのもと、復興ボラセンが取り組んでいるENTRANCEプロジェクト。ついに「旧宮内薬局」の改修作業が始まります。住民の方からも「いつできるの？すごく待ち遠しいです！」との声も出始めてきた今。「集まる」「話し合う」「創り出す」の3つのコンセプトを大切にするENTRANCE。完成が待ち遠しいです！



(一社) 安平町復興ボランティアセンター

☎ 070-3139-0374 メール abira.fukkouborasen@gmail.com

記事提供
編集・校正

安平町復興ボランティアセンター
安平町役場総務課情報グループ